

「真心をつくす」

国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ

東京昭島中央ロータリークラブ

TOKYO AKISHIMA-CHUO ROTARY CLUB.



2015 年(平成 27 年)4 月 22 日(水)
第 1228 回 例会報告

事務局 〒196-0034 東京都昭島市玉川町 3-10-1 ヒルパークハイツ 1F TEL 042-544-1001 FAX 042-544-1002

●本日の司会

(佐々木 稔郎副SAA)



●開会点鐘

(伊藤 満雄会長)

●ロータリーソング「我らの生業」斉唱

●4 月の唱歌「花」斉唱

※岡野和弘新会員のリクエスト

♪春のうらのの 隅田川 のぼりくだりの 船人が
權のしずくも 花と散る ながめも何にたとうべき♪

●本日のお客様

昭島市教育委員会 教育長 木戸 義夫様

吉野 和也様

津乗 正勝様

河内 延紘様

米山奨学生 レ ホアン アンさん

●会長の時間

(伊藤 満雄会長)



※二宮金次郎(尊徳)について
(1787)天明 7 年、相模の国足柄上郡(現在の神奈川県小田原市)の裕福な百姓の長男として生まれました。正しい読み方は「たかのり」、金次郎は幼名です。尊徳が 5 歳の時、酒匂川が決壊し、父利衛門の田畑も流失してしま

いました。それに気落ちしたせいか、利右衛門は病気がなってしまう、長く寝込みました。尊徳は父に代わって堤防の工事などにも出かけました。しかし 14 歳の時に父が、その 2 年後に母が亡くなってしまいました。田畑はなく、幼い 2 人の弟を抱えた尊徳は叔父や知人を頼って

居候をすることになったのです。

16 歳からの 4 年間、畑仕事をし、同時に「論語」や「大学」などの勉強に励み、農業と、人生のことを考える。20 歳になった尊徳は身長 180cm (6 尺) を超える若者に成長しました。立派になったのは体格だけでなく、約 1 反分(約 300 坪)の土地まで自分のものにしていました。さらに年ごとに土地を増やし、家まで建てました。こうした評判は小田原城下にも伝わり、各地の農村の再建に携わるように成りました。

尊徳が壮年期を過ごした天保時代も大規模な飢饉が続きました。そんな中、尊徳は村人を指導して、田畑を開墾させ、用水路をつくり、生産を上げる仕事に尽力しました。その甲斐あって、飢饉の中でも尊徳がいた村には 1 人の餓死者も出なかったそうです。

尊徳は田畑が荒れ、人の心も荒廃してしまった村を次々に再建し、その数、関東 10 国、600 以上の村に及んだといえます。

●幹事報告

(小島 弘明幹事)



地区より《エコキャップ運動のご案内》文書の取り消しのお願いがきております。

「昨年 12 月初め、《エコキャップ運動のご案内》文書を地区内各クラブの皆様へお送り致しました「エコキャップ運動」へのご参加をご紹介させて頂きましたところ、この度、運動主体であります、NPO 法人 エコキャップ推進協会において、寄付を中断しているとの報道がありました。詳細、真偽の点は確認中です。地区担当ポリオ委員会と致しましては、実害が出る前に推奨を取り消す事が望ましいと判断致します。」との事です。

ロータリー財団への寄付に関するお願いの件ですが、本田ロータリー財団委員長のご尽力のお陰で 1 人 150 ドルを達成する事が出来ました。

米山梅吉記念館から 100 円募金のお願いがきております。

東京西ローターアクトクラブより創立 45 周年記念式典・懇親会のご案内がきております。

※開催日 4 月 26 日(日) ※時間 12:30 開会点鐘

韓国姉妹地区 国際ロータリー第 3650 地区「地区大会」のご案内がきております。

※日時 5 月 14 日(木)・15 日(金) ※会場 グランドハイアット ソウル

東京グローバルロータリークラブより「チャリティー

ディナーコンサート」のご案内がきております。

※日時 5月19日(火) 18:30 開演 ※会場 国際文化会館「樺山・松本ルーム」

東京西ロータリークラブより創立60周年記念式典・晩餐会のご案内がきております。

※日時 5月29日(金) 17:00~ ※会場 ホテルオークラ東京

国際ロータリー第2580地区東京御苑ロータリークラブより国際ロータリー加盟認証伝達式のご案内がきております。

※日時 5月30日(土) 12:00~ ※会場 新宿ワシントンホテル3階

多摩中グループ例会変更

東京立川RC→4月29日(水) みどりのフィールドコンサート(昭和記念公園)

●卓話(昭島市教育委員会 教育長 木戸 義夫様)

※講師紹介(佐藤 義弘会員)



木戸教育長さんは、当クラブの青少年野球教室に、毎年、ご出席いただきご挨拶を頂戴しております。

年初の賀詞交歓会におきまして、たまたま席が隣になりまして、卓話をお願いしましたところ、一つ返事でお引き受けいただきました。

また、昨年の25周年記念式典におきましては、小・中学校の校長先生にお声を掛けていただき、多数の先生に出席いただくことが出来ました。

※卓話



私は、2000年(平成12年)4月に教育委員会の学校教育部長となり、2005年(平成17年)9月に教育長に就任しました。

これまで教育行政に携わったことがありませんでしたが、教育長になり、昭島市の教育を将来展望もって進めていかなくてはな

らない重責を初めて担うこととなり、改めて責任の重大さを痛感いたしましたところであります。

そのころ私は、これからの教育はグローバルな人材の育成を目指すものでなくてはならないと考えており、今でもその方向性は間違いではないと思っております。

今でこそ、グローバルという活字が多方面で普通に見られるようになっていますが、私が教育長となった2005年(平成17年)当時、グローバル人材育成の話をする、今の中学生には健全育成が第一で、我々が相手にしているのは、そんな出来のいい生徒ばかりではない。今取り組むべき課題はそんな夢みだいなものではない。と、真っ向から反論されました。

確かに、そのころの中学生はいたずらが多く、窓ガラスが割られたり、ごみ置き場に火をつけられたり、周りから見れば、まず、学校生活を落ち着かせることが第一であると思うのが普通であったでしょう。

しかしながら、そうした課題をおろそかにするわけではありませんが、同時に、人材育成として、まず、昭島市の中学生を何とか海外に送り、いろいろな体験をさせてあげたい。そして、将来、世界で活躍できる人材とし

て育ててほしい。それが私の仕事である。と心に決めたくてあります。

教育委員会の部長以下、スタッフの力を借りて、何とか海外派遣を実現できたのが、2006年、今から8年前に初めてアメリカのシアトルに生徒を送り、パシフィック大学での英語研修を実施しました。

ホームステイにより、アメリカの家庭での生活を体験できたのですが、同世代との交流は、向こうも夏休みということで、1日程度しかできませんでした。

なんとか、中学生同士の交流をさせてあげたいと考え、季節が逆であるオーストラリアとの交流を試みたわけであります。

いろいろ手を尽くし、どうにか西オーストラリア州のパス市にあるシェントン・カレッジとパス・モダン・スクールとの相互交流ができるようになり、日本からは7月の終わりから8月にかけて、オーストラリアの学校で授業を受けたり、オーストラリアの文化を学んだり、また、オーストラリアからは10月に、昭島市で毎年順番に指定するホストスクールに来ていただき、授業を受けたり、日本文化を体験したりするなど、毎年20人ずつの生徒がお互いにホームステイをし、約10日間の異文化交流をしております。

この事業の応募者も年々増えてきており、将来、世界で活躍する人材に育っていくものと大きな期待を寄せているところであります。

中学生の海外交流事業は、北川市長が最も力を入れたい教育施策であり、実現できて本当に良かったと思っています。

最近の世の中を見ても、経済のグローバル化によって、日本企業がどんどん海外に進出しているため、外国人を積極的に採用する会社が増えてきています。

中には、楽天のように、2012年7月から社内の公用語を英語にし、会議、文書、コミュニケーションの完全英語化を実施した企業も出てきているということです。

日本の企業がグローバル人材の獲得・育成に一斉にアクセルを踏みだしたのは2010年夏頃からといわれております。

新興国シフトを急展開する多くの日本企業にとって、優秀人材イコール、グローバル人材であり、外国人留学生の獲得を増やしているのも「我々がほしいと思う人材を妥協せず求めていくと、外国人にたどりついた。日本人学生だけでは優秀な人材を確保できない。」と採用担当者は言っているようであります。

さらには日本で学ぶ留学生のみならず、企業の採用担当者が直接、中国や韓国、インドなどの有力大学に赴き、学生を獲得する「オンキャンパス・リクルーティング」が行われているようであります。

日本の学生は、もっともっと世界に目を向けなくてはならないのに、内向き志向などといわれてしまっています。

このままでは、中国に、韓国に、インドに、ますます差をつけられてしまうのではないのでしょうか。

2011年度(平成23年度)から小学生の外国語活動が小学5・6年生で必修となりました。

ただ、外国語活動という名称で、教科となるのは2018年度(平成29年度)からの予定であります。

そして、現行の外国語活動は小学3年生から前倒して実施されるとのことであります。

昭島市の教育委員会では小学生に「英語に興味を持ってもらうこと、英語を話すことが楽しいんだ」ということを実感してもらおうと、「英語ふれあい体験事業」を実施しております。

これは、日本国内での英語漬けの2泊3日の事業ですが、トレーニングを受けたアメリカの大学生が子どもたちと、ジェスチャーをまじえて、英語だけでコミュニケーションを取り、またゲームを楽しんだりする、とても好評な事業であります。

もちろん英語だけでできればいいというわけではありません。それではただの英会話の上手な人となってしまいます。

他の教科もしっかりと定着させていかななくてはならないことは、いうまでもありません。

そして、日本の伝統や文化に対する深い理解を基盤とし、国際社会で外国人と対等に議論ができ、自分の考えを主張できる人材として育てていくことが必要なのであります。

資源の乏しい日本が、これからも持続的発展を続けていくためのキーワードは「イノベーション」と「グローバル」であります。

私といたしましては、昭島市の子どもたちが、小さいころから世界に目を向け、世界を相手に活躍できる人材に育てられるよう、心から願っているところであります。

そして、これからも、こうした取り組みに全力を尽くしていきたいと考えております。

※謝辞（今藤 貴徳会長エレクト）



本日は、公務の後、お疲れのところお越しいただき、貴重な卓話を賜りありがとうございました。

毎年、少年野球教室にお越しいただき、感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

●ニコニコBOX発表（石岡 孝光親睦委員長）



◎伊藤会長

六クラブ合同例会に多数の会員の出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

・小島幹事

木戸教育長、本日はありがとうございました。津乗様、河内さん本日はようこそ。

・荒川会員

木戸教育長本日は卓話ありがとうございます。津乗様ご入会おめでとうございます。吉野様見学ありがとうございます。

●出席報告（若杉 司出席委員）



会員数 48名 出席義務会員 46名
本日の出席 28名（メイクによる出席者数を除く）

●委員会報告

志賀 義任孝光社会奉仕委員長

5月10日（日）多摩川クリーン作戦が開催されます。クラブとしても参加をしたいと思いますので、参加可能な方は、FAXのご返信をお願いいたします。

次年度の昭島市民くじら祭の大会テーマを募集しております。クラブ内で案を募り、岡野次年度社会奉仕委員長がまとめて提出をいたしますので、よろしくお願いいたします。

石岡 孝光親睦委員長

親睦旅行の行き先は、比叡山延暦寺参拝とびわ湖クルージングの旅と決定いたしました。参加人数は28名です。参加の皆様には、行程表をお配りしました。会費の集金を5月13日（水）・20日（水）の例会にて行いますので、ご準備をお願いいたします。

渡邊 信義副幹事

次年度の委員長の皆様に事業計画の提出をお願いしております。提出が未だの方は、お早目に提出していただきますようお願いいたします。

●次週例会予定（佐藤 義弘プログラム委員長）

4月29日（水） 祝日休会
5月6日（水） 祝日休会
5月13日（水） 「卓話」
米山奨学生 し・ホアン・アンさん

●閉会点鐘（伊藤 満雄会長）